

福井工業大学大学院 学生員 ○田中 智
 福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

高山は、美しい自然と古い町並み景観を有する日本有数の観光都市であり、飛騨の小京都と呼ばれている。従って、高山を訪れる観光客にとってより質の高い観光地であることが望まれる。

そこで本研究では、第1次調査（平成13年10月実施）において実施した観光客への行動アンケート調査を検証し、より詳細な観光行動を把握するため、観光客の追跡調査を実施することになり、観光客の観光行動および観光経路についての分析を行った。

2. 調査概要

本研究における調査は、平成14年10月12日に、高山市内において駐車場を起点として、観光客を対象とする追跡調査を行った（第2次調査）。被験者の辿ったルートと共に、被験者の性別、年齢層、同行人数および追跡時間についても記入した。また、追跡終了後に被験者を呼び止めて、被験者の個人属性、高山への訪問回数、等の項目についてアンケートを実施した。なお、途中で飲食店等時間のかかる場所に入った場合はそこで追跡調査は打ち切りとした。

3. 調査結果

(1) 追跡の結果

被験者の追跡状況は、駐車場を起点として戻って

きて完結したものが15組、追跡の途中で終了したものが24組、追跡を始めて直後に入店し、追跡中止となったものが27組の合計66組であった。そのうち有効サンプルは完結、途中で終了した組の合計39組とした。各項目別に使用したサンプル数は、被験者の属性と歩行速度が有効サンプルの39組、滞在時間と歩行距離が完結した15組とした。

(2) 被験者の属性

グループ別人数はカップルが61%と最も多く、次いで子供連れ、5人組、4人組、の順で、3人組、6人組は共に3%であった（図-1参照）。年齢構成は青年以下（小学生以下、中・高校生・大学生を含む青年）、壮年（30～50代）、熟年（60歳以上）の3階層として調査した結果、壮年の55.5%が最も多く、次いで熟年、青年以下の順であった（図-2参照）。

(3) 観光客の歩行距離

地図に書き入れた観光客の追跡ルートをキルピメータで測定した結果を、0.5km未満、0.5km以上1km未満、1km以上1.5km未満、1.5km以上2km未満、2km以上、の5段階で分類したところ、0.5～1kmと1～1.5kmが約33%であり、1.5km～2kmが20%、0.5km未満と2km以上が6.7%であった（図-3参照）。また、歩行距離の平均をとったところ、1204mであり、三町を一周した距離（約1300m）に近い値となった。

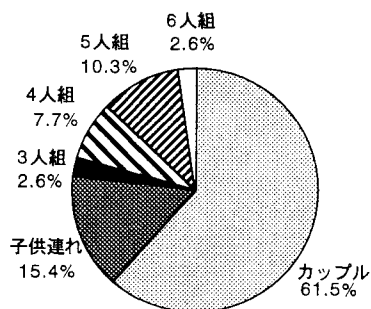


図-1 グループの人数構成

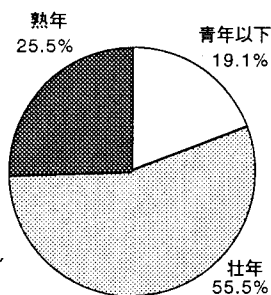


図-2 年齢構成

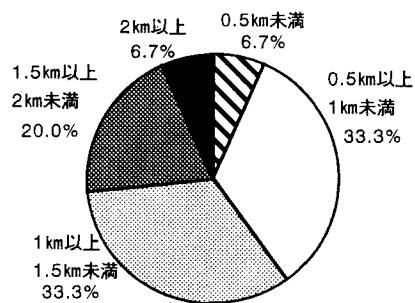


図-3 観光客の歩行距離

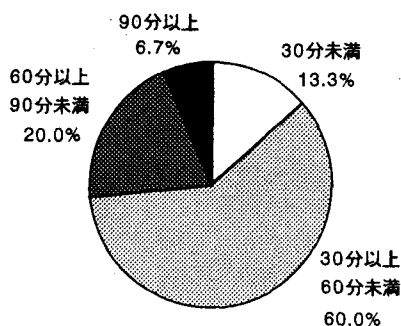


図-4 観光客の滞在時間

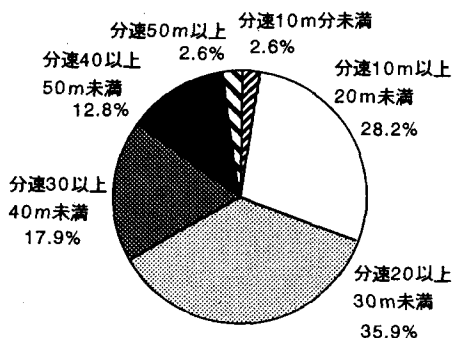


図-5 観光客の歩行速度

(4) 観光客の滞在時間

追跡時間を滞在時間として考えた結果を、30分未満、30分以上60分未満、60分以上90分未満、90分以上の4段階に分類した。その結果、30分以上60分未満が60%を占めており、続いて、60分以上90分未満、30分未満、90分以上であった(図-4参照)。

(5) 観光客の歩行速度

観光客の歩行距離と滞在時間から、歩行速度を割り出し、その速度を分速10mおきに区切り集計した。その結果、分速20m以上30m未満が約36%と最も高率であり、分速10m以上20m未満が続いていた(図-5参照)。また、最も速い速度のグループでも分速61mという穏やかな速度で歩いていた。このことから、普通の歩行速度(分速75m)と比べてかなり遅いといえる。

(6) 観光ルートの類型化の比較

観光ルートの類型化は平成13年に実施した第1次調査を基準とした。第1次調査で最も多かった往復型は今回最も少なく、二番目に少なかった混合型が今回は最も多かった(図-6参照)。

調査種別		第1次		第2次	
調査方法		アンケート調査		追跡調査	
パターン	名称	サンプル数	%	サンプル数	%
	回遊型	4	2.2	4	26.6
	往復型	73	40.1	1	6.7
	寄り道型	46	25.3	3	20.0
	徘徊型	31	17.0	1	6.7
	混合型	28	15.4	6	40.0
		182	100.0	15	100.0

図-6 観光ルートの類型化の比較

4. まとめ

観光客に対する追跡調査の結果から、距離、時間、速度、およびルートを検証することにより、観光客の行動を把握することができた。

1) 第1次調査と第2次調査の観光ルートの類型化における大幅な差異は調査方法の違いがあらわれたものであり、観光客自身の手によってルートを書き入れた昨年の場合、高山という場所を完全に把握しているわけではないのでどうしても曖昧さが出た結果である。

2) 高山を訪れる観光客の滞在時間は1時間未満が、70%を超えていた。歩行速度は分速30m未満が半数以上であり、非常にゆっくりとした速度で観光をしているといえる。

今後の課題としては、本研究のサンプル数が少ないことから、より多くのサンプル数を取得して観光客の行動を把握する必要がある。

【参考文献】 柏原康之・和田章仁；観光行動からみた小京都の魅力に関する考察—飛騨高山を例として—、土木学会関西支部年次学術講演集、pp.IV-50-1~2 2002年5月

藤原健固；歩きの科学；講談社